

# 令5 高等学校書道（6枚のうち1）

（解答はすべて、解答用紙に記入すること）

一 次の文章を読んであとの問いに答えなさい。

現在、最古の漢字とされているのが殷時代の（①）である。（①）は（②）に占いの記録が刻された文字である。（①）から秦時代の公式書体・（③）までを総称して（④）という。

春秋・戦国時代には群雄が割拠し、文字や文化も地域ごとに独自の展開を見せた。大家をはじめ、端的なものや繊細なもの、装飾性の強いものなど、さまざまな字形が生まれた。また、銘文の内容も、次第に王の権威を示すものへと変化していった。これらの文字は、目的によって、金属や石、玉などに刻されたり、木・竹簡や絹布（帛書）に書かれたりした。

前漢時代に入ると、（⑤）が次第に準公用体として認められるようになり、後期には（⑥）を強調した八分が既に完成していたことが近年の出土資料から窺える。後漢時代の肉筆には、当時防衛の最前線であった辺境の地から出土した簡牘がある。二〇〇四年、湖南省長沙市東牌楼で後漢時代末期に記された〈東牌楼漢簡〉（二六八～一八九）が出土した。その中に初期の楷書とみなせるものが含まれており楷書の成立を考える上で重要な発見である。

唐時代になると、書を好み（⑦）を酷愛した太宗のもと、初唐の三大家が活躍し、それぞれが後世の模範となる格調高い名品を残した。また、唐時代初期には（⑦）の書法を遵守した孫過庭があらわれた。中期から後期にかけては、張旭・懷素らが（⑧）とよばれる奔放な草書を書くなど新しい風潮が起った。

問一 文中の空欄①～⑧に当てはまる適切な言葉を漢字で書きなさい。ただし、①、⑦以外については漢字2字で書きなさい。なお、

同じ数字には、同じ文字が入る。

問二 傍線部Ⅰ～Ⅳについて、次の問いに答えなさい。

- (1) 傍線部Ⅰについて、石の側面に、狩猟に関する詩が刻されている現存する最古の石刻文字である作品を漢字3字で書きなさい。
  - (2) 傍線部Ⅱについて、廢材の煉瓦に、罪人の名前・刑罰・死亡時期などを刻したものを漢字で書きなさい。
  - (3) 傍線部Ⅲの人物名をそれぞれ漢字で答え、楷書の作品を一点ずつ漢字で書きなさい。
  - (4) 傍線部Ⅳの人物が書いた、書を学ぶ基本原則や芸術観を説いているこの作品名を漢字で書きなさい。
- 問三 図版Aについてあとの問いに答えなさい。



図版A

孟。王若曰、孟。丕顯玟  
王、受（⑨）（⑩）大命、（⑪）珮  
王、嗣玟（⑫）邦。關厥匿

(1) 図版Aの作品名を漢字で書きなさい。

(2) 図版Aの積文の空欄⑨～⑫に当たる文字をそれぞれ楷書で書きなさい。

二 次の文章を読んであとの問いに答えなさい。

明時代になると、従来の卷子とは異なる条幅という作品の形式が広まった。明時代末期には長条幅という大きな作品にに応じて草書を書き連ねる（①）が流行した。張璠図は個性を発揮し、倪元璐・王鐸・傅山は、特に（①）をもって明時代末期から清時代初期に活躍した。また、横披、長条幅、扇面など様々な書の形式が流行した。さらに、書文化が爛熟する中、筆・墨・硯・紙が発達した。明・清時代は、製墨技術が最高峰に達した時期で、製墨の名家を多く輩出した。

清時代には、法帖を基に書を継承した（②）学派に対して、古代石刻資料などを研究し、書に新しい流れを持ち込んだ（③）学派とよばれる一派が出現した。また、末期には、書・画・篆刻をこなし、独自の境地を開く文人も多く現れた。



図版A



図版B



図版C



図版D



図版E

問一 文中の空欄①～③に当てはまる適切な言葉を漢字で書きなさい。ただし、①については漢字3字で書きなさい。

問二 傍線部Ⅰの人物と関連するものを、図版A～Eの作品（すべて作品の一部）からそれぞれ選び、その符号を書きなさい。

問三 傍線部Ⅱを総称して何というか漢字4字で書きなさい。

問四 傍線部Ⅲについて、植物性の油や松を燃やして煤を集めることを何というか漢字2字で書きなさい。

問五 傍線部Ⅳについて、あとの問いに答えなさい。



図版F



図版G



図版H



図版I

(1) 図版Fは文字の部分を彫ったもので、押印したときに文字が白くなる。また、図版Gは文字の周囲を彫ったもので、押印したときに文字が赤くなる。このような彫り方の印の総称をそれぞれ漢字2字で書きなさい。

(2) 図版Hは中国の戦国時代に使用されていたものである。このような印の総称を漢字2字で書きなさい。

(3) 図版Iは田字画で区切られた中に文字が彫られている。始皇帝によって印の制度が確立された、このような印の総称を漢字2字で書きなさい。

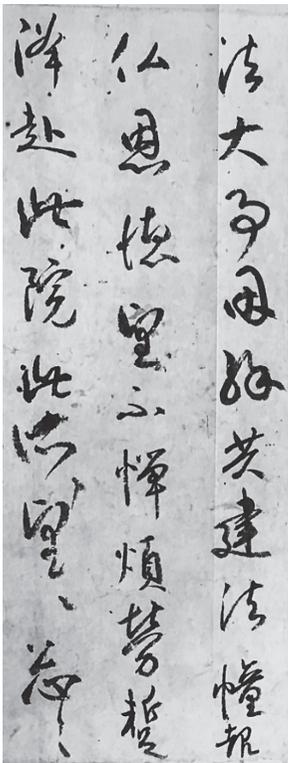
# 令5 高等学校書道 (6枚のうち2)

(解答はすべて、解答用紙に記入すること)

三 次の文章を読んであとの問いに答えなさい。

平安時代初期は遣唐使によってもたらされた唐の文化が尊重され、書においても同様に唐の書が模範とされた。当時、書に秀でた能書<sup>I</sup>の三筆が、唐からもたらされた書法を基盤としつつ、個性豊かな書を遺した。

平安時代中期以降には、遣唐使の廃止、国風文化の隆盛により、温和で流麗な書へと変わっていく。当時、書に秀でた能書<sup>II</sup>の三跡が、和様の書の確立に貢献し、独自の書の世界を展開した。



図版 A



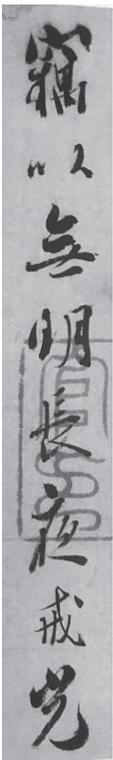
図版 B



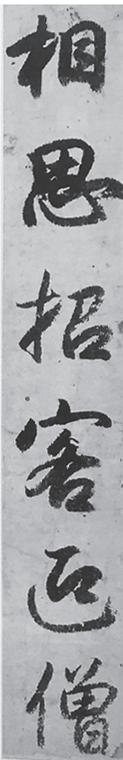
図版 D



図版 F



図版 C



図版 E



図版 G

法大 ( ① ) 因 ( ② ) 。 共建法幢、報  
 仏恩 ( ③ ) 。 ( ④ ) 不憚煩勞、暫  
 降赴此院。此所 ( ④ ) 所 ( ④ ) 。 念

問一 傍線部Ⅰ・傍線部Ⅱの書作品を図版A～Fからそれぞれ選び、その符号を書きなさい。また、それぞれの作者名(一部伝承筆者名)と作品名を漢字で書きなさい。

問二 図版Aの積文の空欄①～④に当たる文字をそれぞれ楷書で書きなさい。ただし、同じ数字には、同じ文字が入る。

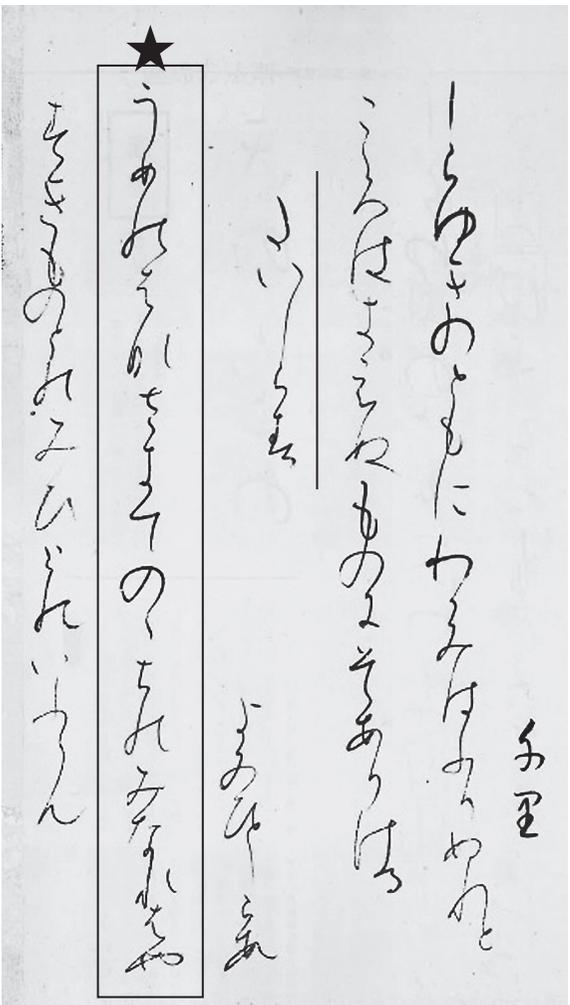
問三 図版Gの作者は図版Aの作者と親交があった人物である。図版Gの作者名と作品名を楷書で書きなさい。

問四 尺牘に該当する作品を図版A～Gからすべて選び、その符号を書きなさい。

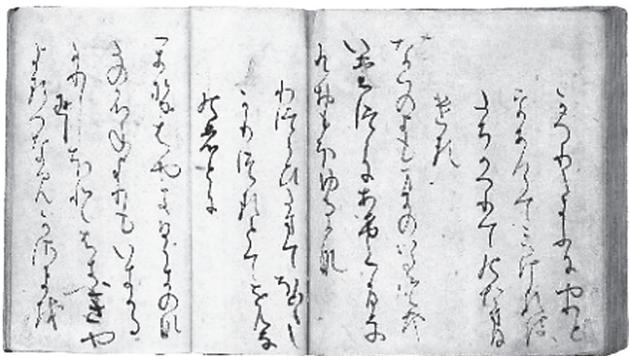
問五 傍線部Ⅱで、『大鏡』に「懈怠者」、「如泥人」と評された人物の作品を図版A～Gから一つ選び、その符号を書きなさい。

四 次の文章を読んであとの問いに答えなさい。

漢字が真名とよばれたのに対し、漢字一字に一音をあてて表記する文字は、仮名と呼ばれた。初期の仮名には漢字の行書・楷書が用いられ、八世紀後半に成立したとされる歌集に使用されたことから、( ① ) と呼ばれた。平安時代に入ると漢字の草書体を用いて書く草仮名が使われるようになり、簡略化が進んだ。平安時代中期には、草仮名をさらに簡略化した仮名、( ② ) が用いられるようになった。こうして日本独自の文字が発達し、定着していった。平安時代後期は、仮名の最盛期で、歌集や物語などの多くの書物の切り離された一部分である( ③ ) が現在に遺る。表現の美しさを追求し、著名人の筆跡を集めてアルバム状に仕立てた( ④ ) は、安土桃山時代から確認できる美の象徴であった。その後、明治三十三年に一字一音に決められたものが、現在の私たちが使う平仮名である。またそれ以外の仮名を区別して、( ⑤ ) と呼んでいる。



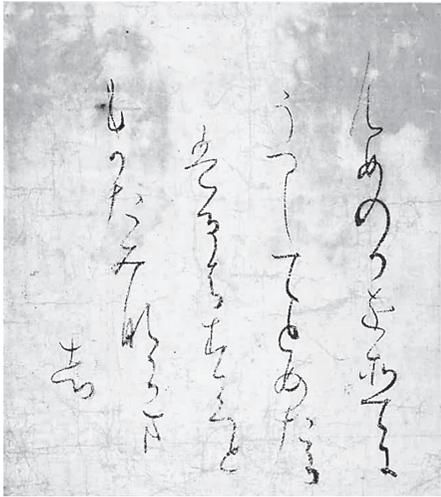
図版 A



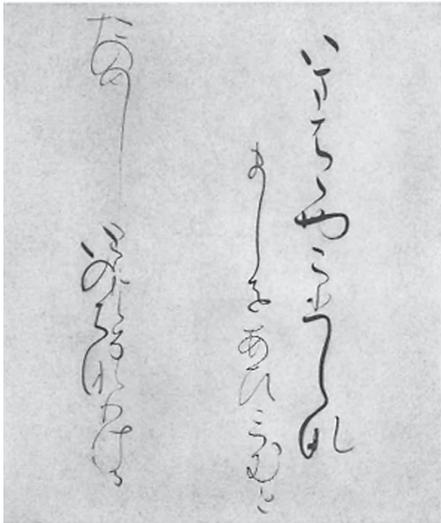
図版 B

# 令5 高等学校書道 (6枚のうち3)

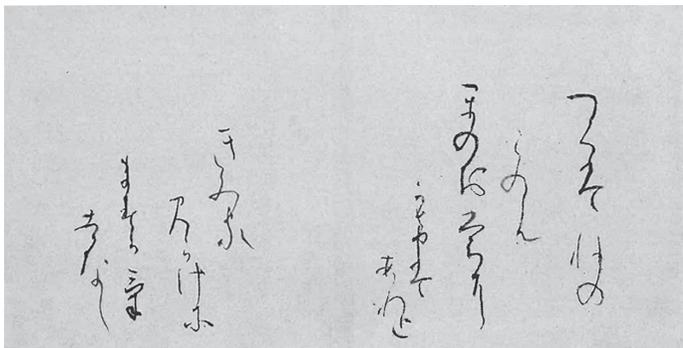
(解答はすべて、解答用紙に記入すること)



図版 C



図版 D



図版 E

問一 文中の空欄①～⑤に当てはまる適切な言葉をそれぞれ漢字で書きなさい。

問二 図版 A・図版 B の伝承筆者名と作品名をそれぞれ漢字で書きなさい。

問三 図版 A について、次の問いに答えなさい。

- (1) ★の行をすべて平仮名に直し、その字源となる漢字を解答欄に合うように書きなさい。  
 (2) 傍線部について、歌や作者の前に、詠んだ背景などを書いたものを、何とか漢字で書きなさい。

問四 図版 C～E は、仮名美の最高峰に位置づけられる古筆である。作品名をそれぞれ漢字で書きなさい。

問五 次の鑑賞文 a・b の内容に合致するものを図版 A～E からそれぞれ選びその符号を書きなさい。

- a 清原深養父の歌集を書写したもので、「今となつてはあなたに逢うことだけが私の生きが이었다」と歌っている。  
 b 古今和歌集の四季の歌を一首ずつ書いたもので、茶席での掛物としても尊重されている。線質は明快で緩急があり、構成に変化を持たせた「散らし書き」である。

問六 次の文中の空欄⑥～⑨に当てはまる適切な言葉をそれぞれ漢字で書きなさい。

平安時代に隆盛を極めた華やかな装飾紙を(⑥)という。浸す・漉くなどの方法で作られている、装飾の基本である(⑦)と、顔料に胡粉や膠液を混ぜて塗った具引き紙に文様を刷り出した(⑧)に大別される。それらを切ったり、破ったり、糊で貼り合わせたものを(⑨)という。

問七 江戸時代中期以降、古筆にはさまざまな名称がつけられてきた。次の解答例に従って、a～e の古筆の命名の由来をそれぞれあ

- とのア～オから選びその符号を書きなさい。 例) 高野切 オ  
 a 元永本古今集 b 蓬萊切 c 本阿弥切 d 粘葉本和漢朗詠集 e 針切

ア 所蔵者名

イ 伝来地

ウ 書風の特徴

エ 書写年代

オ 装丁

五 次の文章を読んであとの問いに答えなさい (図版の落款は省略しています)。

問一 高等学校学習指導要領(平成三十年告示)の「書道 I」の内容の取扱いを踏まえて、あとの問いに答えなさい。

・内容の「A表現」及び「B鑑賞」の指導に当たっては、(①)・(②)・表現力等の育成を図るため、芸術科書道の特徴に応じた(③)を適切に位置づけられるよう指導を工夫する。なお、内容の「B鑑賞」の指導に当たっては、作品について(④)をもつて批評する活動などを取り入れるようにする。  
 ・内容の「A表現」及び「B鑑賞」の指導に当たっては、書道の諸活動を通して、生徒が文字や書と(⑤)や(⑥)との関わりを実感できるよう指導を工夫する。  
 ・自己や他者の著作物及びそれらの著作者の創造性を尊重する態度の形成を図るとともに、必要に応じて、書に関する(⑦)について触れるようにする。また、こうした態度の形成が、書の(⑧)と文化の継承、(⑨)、創造を支えていることへの理解につながるよう配慮する。

(1) 文中の①～⑨に当てはまる適切な言葉を漢字で書きなさい。

(2) 傍線部 I について、書の商品を制作するとき、題材として自分が作ったのではない俳句や詩、歌詞などを使用することがあるが、著作権保護期間を過ぎている場合は著作権者や著作権を管理している団体から使用の許諾を得なければいけない(授業や私的な利用の範囲は例外)。著作権保護期間は、原則として次のうちのどの期間にあたるか、次のア～エから一つ選び、その符号を書きなさい。

ア 著作者の没後五十年

イ 著作物の出版五十年

ウ 著作者の没後七十年

エ 著作物の出版七十年

## 令5 高等学校書道（6枚のうち4）

（解答はすべて、解答用紙に記入すること）

(3) 携帯電話やパソコンが普及し、キーボードやタッチパネルで文字を入力する機会が増えてきているが、入力の際のフォントで使用されることもある、**図版A**のような明朝体のフォントの元となった字を書いた人物の名前を漢字で書きなさい。

(4) 次の**図版B**～**D**の生活の中の書作品を書いた作者名を次の説明文を参考に、漢字で書きなさい。

**図版B** 兵庫県ゆかりの人物。小野鶯堂の仮名作品に惹かれ仮名の書をはじめ、その後、桑田笹舟に師事した。

**図版C** 江戸時代の将軍の一人。

**図版D** 二十世紀を代表する芸術家。書や篆刻、絵画、陶芸といった様々な分野で活躍した人物。

明

図版 A



図版 B



図版 C



図版 D

問二 高等学校学習指導要領（平成三十年告示）の「書道I」の内容の取扱い「B鑑賞」において、新たに取り上げることと示したものを、次のア～エから一つ選び、その符号を書きなさい。

ア 漢字の書体の変遷

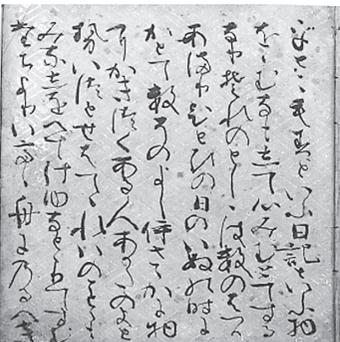
イ 平仮名の成立

ウ 片仮名の起源

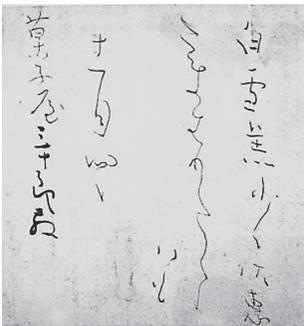
エ 漢字仮名交じり文の成立

問三 **図版E**～**I**の作品について時代の古い順に符号で並びかえなさい。

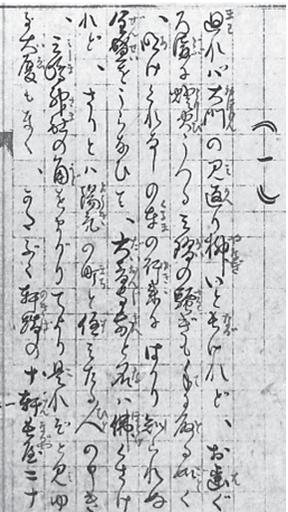
問四 **図版E**、**I**の作品名および**図版F**、**G**、**H**の作者名を漢字で書きなさい。



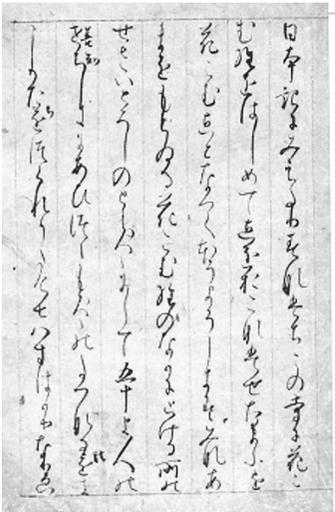
図版 E



図版 H



図版 F



図版 I



図版 G

問五 書論についてあとの問いに答えなさい。

(1) 次のa～cの書論の出典をあとのア～エから一つ選び、その符号を書きなさい。

a 字々同じからず 数十の之。

b 筆墨の迹は、形有るに託す。形有れば則ち弊るるあり。苟くも無に至らずして自ら一時を楽しみ、いささかその心に寓して、憂ひを晩歳に忘るれば、則ちなほ博奕に賢るなり。

c 真書は平和を以て上と為す。

ア 藤原教長『才葉抄』

イ 郝経『陵川集』

ウ 包世臣『芸舟双楫』

エ 蘇軾『東坡題跋』

(2) 次の書論はある人物について書いたものである。この書論の言葉から書道を別名何というようになったか漢字3文字で書きなさい。

晋帝の時、北郊を祭るに、祝板を更む。工人これを削るに、筆木に入ること三分。

令5 高等学校書道解答用紙  
(6枚のうち5)

総計		

問三	問二				問一	
(1)	(4)	(3)	(2)	(1)	⑤	①
作品名	作品名	人物	人物			
					⑥	②
(2)						
⑨		作品名	作品名			
					⑦	③
⑩						
			人物			
⑪					⑧	④
⑫			作品名			

一		

問五	問四	問三	問二	問一
(1)			張瑞図	①
図版F				
			倪元璐	②
図版G				
			王鐸	③
(2)				
			傅山	
(3)				

二				

問五	問四	問三	問二	問一						
		図版G	①	三跡			三筆			
		作者名		符号			符号			
				作者名						
			②							
			③							
		作品名		作品名						
			④							

三				



